



令和7年度 奈良県防災士会総会

令和7年度奈良防災士会の総会は5月25日(日)14時より王寺町地域交流センターりーべるホールにて開催された。まず司会より出席人数の集約報告がなされ、総会成立要件を満たしていることが報告され、開会が宣言された。引き続き次第通り理事長、来賓の挨拶があり、その後の議事審議に当たり議長の選出を諮ったところ、「司会者一任」の声が挙がり、立候補もなかったことから、司会者より本総会の議長を三郷町の澤美穂氏を指名したところ、参加者の拍手で選出された。澤議長の議事進行により、第1号議案から第5号議案まで承認可決することができた。事業計画ならびに会計收支予算に対し、奈良市の中澤正会員より要望3件、生駒市の坂口防災士より要望1件があり、「いずれも今後検討していく。」と答弁された。最後に司会より閉会宣言を行い15時に総会の幕を閉じた。

令和7年度正会員数143名中会場への出席47名、委任状提出者50名 <報告：八幡領防災士>



活動報告

■2025年(令和7年)1月～7月末の活動 ※参加人数は、主催者発表による。

月/日(曜)	イベント、派遣内容	市町村名	主催者又は要請団体	参加人数
1/11(土)	事務局会議	奈良市	奈良県防災士会	20名
1/11(土)	広報誌発送作業	奈良市	奈良県防災士会	23名
1/11(土)	理事会	奈良市	奈良県防災士会	23名
1/11(土)	奈良県防災士会役員新年会	奈良市	奈良県防災士会	13名
1/14(金)	葛城市立磐城小学校 5年生向け 「自分たちで作ったお米でポリ袋クッキングをしよう」	葛城市	葛城市立磐城小学校	24名

月/日(曜)	イベント、派遣内容	市町村名	主催者又は要請団体	参加人数
1/15(土)	葛城市立磐城小学校 5年生向け 「自分たちで作ったお米でポリ袋クッキングをしよう」	葛城市	葛城市立磐城小学校	24名
1/15(水)	R6年度大和川流域水害対策WG(幹事会) — 「大和川における河川事業の整備状況」		大和川流域水害対策協議会	58名
1/16(木)	都祁中学校防災学習(HUG)	奈良市	奈良市立都祁中学校	80名
1/16(木)	葛城市立当麻小学校 5年生向け 「AED講習・簡単応急手当講習・能登地震ボランティア活動報告」	葛城市	葛城市立当麻小学校	42名
1/18(土)	防災倉庫お披露目会	奈良市	西大寺東町一丁目自治会	32名
1/20(月)	葛城市立磐城小学校 5年生向け 「自分たちで作ったお米でポリ袋クッキングをしよう」	葛城市	葛城市立磐城小学校	24名
1/24(金)	葛城市立磐城小学校 5年生向け 「自分たちで作ったお米でポリ袋クッキングをしよう」	葛城市	葛城市立磐城小学校	24名
1/28(火)	R6年度大和川流域水害対策協議会	奈良市	国土交通省 近畿地方整備局 大和川河川事務所	39名
1/28(火)	生駒郡4社協職員研修 「能登半島地震・豪雨災害～支援活動から見えてきたもの～」	安堵町	安堵町社会福祉協議会	30名
1/29(水)	木津川上流部大規模水害・土砂災害に 関する減災対策協議会 第19回減災対策協議会【合同幹事会】	オンライン	近畿地方整備局 木津川 上流河川事務所 流域治水課	1名
2/1(土)	関西支部連会議	オンライン	日本防災士会関西支部連絡 協議会	13名
2/2(日)	自主防災支援事業(大和高田市) 「大地震！マンションでの在宅避難について 考える～防災講演・安否確認訓練」	大和高田市	奈良県防災統括室、 ディオ・フェルティ大和高田自主防災会	17名
2/3(月)	奈良市防災リーダー研修 「地区防災計画を作ろう」	奈良市	奈良市自主防災防犯協議会	129名
2/9(日)	自主防災支援事業(上北山村) 「村全体の防災に関する講習会」	上北山村	奈良県・上北山村	14名
2/9(日)	「もしもに備える！登美ヶ丘の防災」	奈良市	奈良市生涯学習財団 登美ヶ丘公民館	32名
2/14(金)	奈良県防災プラットフォーム コーディネーター研修1日目	橿原市	奈良県防災プラットフォーム 連絡会事務局	1名
2/17(月)	葛城市立当麻小学校 5年生向け 「AED講習・簡単応急手当講習・能登地震ボランティア活動報告」	葛城市	葛城市立当麻小学校	42名
2/19(水)	忍海小学校付属幼稚園年長向け 「ポリ袋クッキング・簡易担架競走・標語確認」	葛城市	葛城市立忍海小学校付属 幼稚園	18名
2/22(土)	生駒郡4町社協訓練(災害VC訓練)	安堵町	生駒郡4町社協	約70名
2/23(日)	広陵中央ピクトリー会 防災講演会	広陵町	奈良県・広陵町	44名
2/23(日)	奈良市防災リーダー研修	奈良市	奈良市自主防災防犯協議会	93名
2/24(月)	奈良県防災士会研修会 「石川県支部 大月真由美氏」	王寺町	奈良県防災士会	145名
2/24(月休)	奈良県防災士会懇親会 (防災士会33名・県防災統括室2名・奈良市自主 防災リーダー研修5名)	王寺町	奈良県防災士会	40名
2/27(木)	平群町防災訓練「避難所運営ゲーム HUG」平群町	平群町	平群町中央公民館	約50名

月/日(曜)	イベント、派遣内容	市町村名	主催者又は要請団体	参加人数
2/28(金)	奈良県防災プラットフォーム コーディネーター研修2日目	橿原市	奈良県防災プラットフォーム 連絡会事務局	1名
3/1(土)	王寺町防災訓練(講演)	王寺町	王寺町役場防災統括室	490名
3/4(火)	葛城市立忍海小学校 5年生向け 「ポリ袋クッキング・簡単応急手当講習・能登地震ボランティア活動報告・新聞スリッパ」	葛城市	葛城市立忍海小学校	54名
3/5(水)	葛城市立新庄中学校 1年生向け 「HUG 講習・能登地震ボランティア等活動報告」	葛城市	葛城市立新庄中学校	69名
3/7(金)	葛城市立新庄中学校 1年生向け 「HUG 講習・能登地震ボランティア等活動報告」	葛城市	葛城市立新庄中学校	138名
3/9(日)	三郷町自主防災組織向け 自助・共助の重要性及び地震時のタイムライン作成	三郷町	三郷町役場 総務課	28名
3/16(日)	「地区でできる防災対策」(地震編)	大和高田市	松塚自主防災会	38名
3/23(日)	理事会	奈良市	奈良県防災士会	17名
3/23(日)	事務局会議	奈良市	奈良県防災士会	13名
4/5(土)	事業会計監査	三宅町	奈良県防災士会	4名
4/11(金)	香芝市防災講演 「みんな(男女)の視点で考える防災」	香芝市	香芝市人権問題推進本部	64名
4/20(日)	理事会	三宅町	奈良県防災士会	25名
4/20(日)	総会用議案書発送作業	三宅町	奈良県防災士会	23名
4/20(日)	事務局会議	三宅町	奈良県防災士会	22名
4/27(日)	関西支部連絡協議会会議	新大阪	日本防災士会関西支部 連絡協議会	3名
5/10(土)	日本防災士会創立 20周年記念イベント	茨城県	日本防災士会	100名
5/13(火)	三郷中学校2年生(5クラス) 防災訓練	三郷町	三郷町教育委員会	170名
5/17(日)	石川県防災士会 大月副理事長による 「(仮)避難所運営の実務研修」	王寺町	奈良県防災士会	23名
5/22(木)	近畿ブロック合同訓練・奈良県防災総合 訓練「第一回全体会議」	奈良県	近畿ブロック合同訓練実行 委員会事務局	131名
5/24(土)	日本防災士会滋賀県支部 令和7年度定期総会	—	日本防災士会滋賀県支部	—
5/25(日)	奈良県防災士会 令和7年度定期総会	—	奈良県防災士会	90名
5/25(日)	奈良県防災士会 記念研修会 「スフィア基準」	—	奈良県防災士会	112名
5/25(日)	奈良県防災士会懇親会	—	奈良県防災士会	49名
6/1(日)	令和7年度日本防災士会京都府支部 通常総会	—	日本防災士会京都府支部	—
6/1(日)	葛城市防災士会 総会	葛城市	葛城市防災士会	19名
6/1(日)	スキルアップ研修 AED 講習	葛城市	葛城市防災士会	18名
6/5(木)	奈良防災プラットフォーム連絡会会議	奈良県	奈良防災プラットフォーム連絡会	1名
6/7(土)	耳成地域子ども教室 「自然災害(地震,雷等)発生時対応と防災グッズ」	橿原市	耳成地域子ども教室実行委員会	40名
6/7(土)	平群町連続講座① くらしに活かす防災講座 平群町のリスクを知ろう①	平群町	平群町公民館	8名

月/日(曜)	イベント、派遣内容	市町村名	主催者又は要請団体	参加人数
6/14(土)	理事会	—	奈良県防災士会	21名
6/14(土)	事務局会議	—	奈良県防災士会	18名
6/14(土)	耳成地域子ども教室 「自然災害(地震、雷等)発生時対応と防災グッズ」	橿原市	耳成地域子ども教室実行委員会	70名
6/15(日)	日本防災士会和歌山県支部 令和7年度総会	—	日本防災士会和歌山県支部	—
6/22(日)	防災訓練・避難所 HUG	奈良市	大宮地区防災防犯協議会 三笠公民館	26名
6/22(日)	つげキッズ探検隊	奈良市	都祁公民館	12名
6/22(日)	NPO法人兵庫県防災士会 令和7年度通常総会	—	特定非営利活動法人 兵庫県防災士会	—
6/23(月)	野迫川小中学校 PTA 研修会 「みんなで考えよう! ~大規模災害について~」	野迫川村	野迫川小中学校 PTA	23名
6/27(金)	奈良防災プラットフォーム連絡会会議	オンライン	奈良防災プラットフォーム連絡会	—
6/28(土)	日本防災士会定例総会	東京	日本防災士会	3名
6/28(土)	日本防災士会理事会	東京	日本防災士会	2名
6/29(日)	タイムライン・地震編	三郷町	三室自治会防災部	45名
6/29(日)	災害ボランティア活動報告、HUG 講習	葛城市	葛城市北花内区	34名
7/4(金)	都祁中学校防災学習「地震対応練習」	奈良市	奈良市立都祁中学校	110名
7/5(土)	平群町連続講座② くらしに活かす防災講座みんなで安全に避難しよう	平群町	平群町公民館 平群町防災士ネットワーク	6名 2名
7/19(土)	日本防災士会本部 第2回理事会	—	日本防災士会	2名
7/27(日)	支部長会議	—	日本防災士会	24名
7/29(火)	奈良防災プラットフォーム連絡会	—	奈良防災プラットフォーム連絡会	—
7/30(水)	お天気フェア	奈良市	奈良地方気象台	73名

■令和6年能登半島地震 災害支援活動

月/日(曜)	派遣内容	派遣地	主催団体	参加人数
3/15(土) ～16(日)	令和6年能登半島地震第12次(第19陣) 災害ボランティア	石川県七尾市	民間災害ボランティア センター おらっちゃん七尾	13名

■奈良県安全安心まちづくりアドバイザー派遣

月/日(曜)	イベント、派遣内容	市町村名	主催者又は要請団体	参加人数
5/11(日)	天理市田町自主防災組織研修会 「マイ・タイムライン(地震編)」作成	天理市	田町自主防災組織	30名
7/13(日)	令和7年度斑鳩町自主防災会総会 「豪雨災害について」	斑鳩町	斑鳩町自主防災連絡会	85名
8/2(土)	明日香村島庄大字自主防災会勉強会 「水害時の避難について講演」	明日香村	島庄自主防災会	28名

■令和7年度 奈良県防災士会 記念研修会「スフィア基準」

5月25日 王寺町リーベルホールにおいて、令和7年度奈良県防災士会総会後に岡山大学教授 原田奈穂子氏をお招きして研修会が行われました。



テーマは【スフィア基準】（災害や紛争の被災者が尊厳ある生活を営むための人道支援活動における最低基準のこと）。私たち防災士会のように防災に携わる者としては、災害対応における基本原則と普遍的な最低基準として、世界中で最も広く認識されており、内閣府防災が避難所の生活の質を上げるために参考にすべき資料と定められているということを認識する必要があるものです。本研修では人の形をしたイメージイラストを基に分かりやすく教えていただきました。

様々なお話があった中で印象に残ったのが、避難所で支援を行う際に〔支援を受ける人（受益者）の二ースに合った支援をしているか〕についての調査を行った場合、支援する側の肯定的回答は90%以上であるのに対し、受益者側の回答は10%足らずであるということ。支援する側は自分のできることを精一杯行っているという事実があっても被災して様々な課題や疲労を抱えながら支援してもらっているというありがたさの中でなかなか自分が思う支援をしてもらえていないという数字の乖離があることに改めて気づかせていただきました。だからこそ、「人道支援の必須基準」の九つのコミットメントに含まれる〔支援を受ける人の意見を受けたか〕、〔支援を受ける人のクレームに対応しているか〕など、このスフィア基準を徹底することが必要であることを感じました。災害列島で防災活動に取り組む私たちにとって、とても意義深い研修となりました。<報告：岡本防災士>

講師紹介：岡山大学ヘルスシステム統合科学研究所 教授 原田奈穂子（はらだなほこ）氏
1998年 聖路加大学看護学部卒業。2009年 米ペンシルバニア大学看護学院急性期ナースプラクティショナー修士課程修了。2015年 米ボストンカレッジ大学看護大学院博士課程修了。東北大学大学院医学研究科講師、宮崎大学看護学科総合臨床科学講座教授などを経て、2022年より現職。災害時の保険・医療・公衆衛生・福祉や、支援者支援に関する実践と研究を行っている。

■「道の駅クロスウェイなかまち」防災倉庫見学

令和7年1月11日（土）、奈良県防災士会第5回理事会が道の駅「クロスウェイなかまち」交流ルームで開催され、今回施設管理者である南様のご厚意により、特別に防災倉庫の見学をさせて頂きました。この施設の防災機能としては、①災害時に備え非常用発電を完備（72時間発電）②災害時に自衛隊等の支援活動が可能な駐車場（約1万m²）③防災倉庫を備えるとともに、全ての建物を耐震化済みとなっており、全国に39カ所ある「防災道の駅」として国土交通省に選定されています。

施設の北東部に位置する防災倉庫には、7年保存のレトルト食品や飲料水、洋式のマンホールトイレ、1台で合計55A使用可能な大型発電機が6台、荷受け用のフォークリフトとパレットが保管していました。トイレで使用するマンホールは南棟駐車場に5カ所あり、実際に蓋を開けて確認する事ができました。また駐車場の一部は車輪止めを無くし、ヘリポートとして使用できる仕様になっています。



レストランや奈良の物産を扱う直売所などの道の駅として魅力ある施設でありながら、防災拠点として作りこまれた道の駅となります。交通アクセスも便利な場所なので、ぜひ一度お立ち寄りください。道の駅「クロスウェイなかまち」の詳しい情報は以下のHPをご覧ください。
道の駅「クロスウェイなかまち」公式HP <https://michi-no-eki-crosswaynakamachi.pref.nara.jp>

<報告：八木沢防災士>

■都祁中学校防災学習(HUG)

令和7年1月16日（木）、奈良市立都祁中学校において二年生（3限目4限目）と一年生（5限目6限目）を対象とした防災学習が行われ、都祁地区自主防災会長でもある末田防災士が「HUG（避難所運営ゲーム）」を行いました。都祁中学校では年数回の防災学習の一環として、この時期に毎年HUGを実施しています。

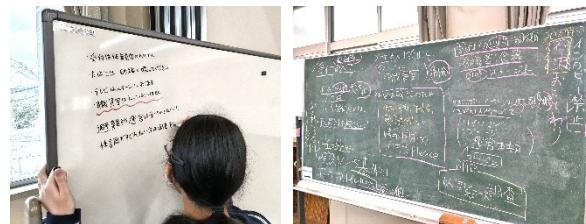


2年生は2回目ということもあり、効率よく段取りを進め、1年生は全員が一緒になって考えながら取り組んでいました。通常HUGはPowerPointを使って説明を行いますが、授業時間内で短いこともあります。

り、例年口頭だけで説明をしてゲームを行いながら慣れて、いってもらう方法で行っていますが、対応力の高さと独創的な考え方には感心させられます。

都祁中学校は市の指定避難所（二次避難所）になっていて、中学校が避難所になるときは大変な状況に陥っていることが予想されます。面積の割に人口が少なく高齢化が顕著ですので、昼も夜も都祁にいる中学生を頼りにしていて、生徒達も自分たちが役に立てることを実感してくれています。いつもながら新しい発見があり、都祁の安全のための有意義な一日となりました。

<報告：末田政一 防災士>



■令和6年度大和川流域水害対策協議会

令和7年1月28日（火）奈良ロイヤルホテル鳳凰の間において、第6回大和川流域水害対策協議会（代表者会議）が開催され、奈良県防災士会からは末田理事長が参加しました。協議会は国土交通省近畿地方整備局の局長が座長となり、奈良県知事、流域25の市町村長、森林管理局森林事務所長、近畿地方環境事務所長、近畿財務局奈良財務事務所長、近畿農政局、奈良地方気象台台長と奈良県防災士会理事長で構成されています。

大和川は特定都市河川および特定都市河川流域への指定を全国で初めて受けた河川で、流域の雨水貯留浸透施設整備も進んでいます。地域の特性を活かして平常時に活用できる施設として貯水池を建設したり、溜め池を治水利用するなどの対策が進められていて洪水対策に役立っています。詳細な浸水危険地域も想定されていて、防災や避難行動に役立つ情報が沢山ありますが、住民への周知が乏しいため知らない方が多いと思います。奈良県防災士会は住民側として唯一の参加団体ですので、避難行動に繋がる情報周知の必要性を促しています。<報告：末田政一 防災士>

■木津川上流部大規模水害・土砂災害に対する減災対策協議会 合同幹事会

令和7年1月29日（水）に木津川上流部大規模水害・土砂災害に関する減災対策協議会がWeb会議で開催され参加しました。参加自治体は、三重圏域では三重県、伊賀市、名張市、津市、京都圏では京都府、南山城村、奈良圏域では奈良県、山添村、宇陀市、曽爾村、御杖村。そのほか関係地域の河川・砂防事務所、気象台、鉄道、防災士会（奈良）など48機関の参加でした。対象となる木津川上流部は奈良北東部、三重西部の山間部を水源とし、京都南部を木津川として流れる地域です。その後京都の鴨川・桂川などと合流して淀川となり大阪湾へ流れる淀川水系に属しています。会議では令和6年の活動事例として自治体からは防災講演や訓練、河川事務所からは治水対策の実施状況が報告されました。防災士会奈良支部としても講演や訓練のほかに広報活動としてラジオ出演、新聞取材対応なども行っていることを報告しました。最近の地球温暖化・気候変動により2040年頃には降水量が約1.1倍、流量が1.2倍、洪水発生頻度が2倍になるとの予測から、流域治水事業をさらに加速・深化させて現在の取り組みを「流域治水プロジェクト2.0」に更新するとの報告がありました。奈良県支部としても、更に水害・土砂災害への減災対策に力を注ぎたいと考えています。<報告：杵島 防災士>

■自主防災支援事業（大和高田市）

「大地震！マンションでの在宅避難について考える～防災講演・安否確認訓練」

令和7年2月2日（日）ディオ・フェルティ大和高田において「大地震！マンションでの在宅避難について考える」と題して防災訓練が行われました。本訓練は奈良県自主防災訓練支援事業の一環で、奈良県防災士会が講師を務め、奈良県防災統括室、大和高田市危機管理課、マンション管理会社の皆さんにもスタッフとしてご協力頂きました。前半は大地震発生時にマンションで在宅避難するための備えや心得について講話をしました。後半はマンションに最近導入された全館放送システムの訓練放送や、タオルを使った安否確認訓練、支援物資の運搬訓練などを行いました。停電でエレベーターが停止しているという想定の下、参加者17名は各フロアに分かれてドアノブにタオルが巻かれている住戸を確認して回りました。マンション総住戸の約半数に当たる31戸にタオルが巻かれており、訓練参加者は多くの住民が協力して下さったことに手応えを感じていたようです。最後は市や県から届いた支援物資を受け取り、再び階段を使ってご自宅まで帰って頂きました。



<報告：小山防災士>

■自主防災支援事業（上北山村）「村全体の防災に関する講習会」

令和7年2月9日（日）、吉野郡上北山村振興センターにおいて「上北山村全体の防災に関する講習会」が実施され、奈良県防災士会から8名の防災士が参加して講師を務めました。この講習会は奈良県自主防災訓練支援事業の一環で、奈良県防災統括室が上北山村の自主防災活動の支援として奈良県防災士会が委託を受けて行っています。上北山村での防災講習は10年ぶりとのことで、最初に「災害に備える」という題材で30分の説明を行い、その後皆さんでロープワークの練習をしました。防災士と一緒にになって身体を動かすことで、徐々にですが皆さん一体になってきて、最初の説明ではやって頂けなかった身を守るシェイクアウトも、訓練途中で突然流した緊急地震速報に反応して、皆さん全員が身を守る行動を取って頂いたのが印象的でした。上北山村は奈良県南部に位置する山間部で、大台ヶ原を抱える日本有数の豪雨地帯です。前日からの大雪のため足元が悪い中でしたが、村内4区の区長さんと各区より役員の方が参加頂いて、村長も役場も含めて今後継続して防災訓練を実施してもらえるように、防災統括室と一緒に手厚く楽しい雰囲気を目的としていましたが、必要性を感じて頂けたよい講習会となりました。<報告：末田政一防災士>

■生駒郡社会福祉協議会

「生駒郡内における災害ボランティアセンター設置・運営訓練」

令和7年2月22日（日）、安堵町のトーク安堵カルチャーセンターにおいて生駒郡4町合同による「生駒郡内における災害ボランティアセンター設置・運営訓練」が行われ、斑鳩町、平群町、三郷町、安堵町の社会福祉協議会職員、奈良県社会福祉協議会職員、法隆寺青年会議所員、生駒郡内住民ら約50名が集まり、奈良県防災士会からも15名が災害ボランティアや被災者役、またはVC運営の支援協力として参加しました。

訓練の災害の想定は、「令和7年2月16日（日）午前10時15分奈良県生駒断層を震源地とするM7.5クラスの地震が発生。この地震により生駒郡内でも震度6弱～6強を観測し、奈良県内に大きな被害を及ぼした。県内での死者は1,000名以上、行方不明者300名をはじめとして、地震による家屋の倒壊は3,000棟に及ぶとの報道がされている。生駒郡内では2月16日（日）には各町において「災害対策本部」が設置された。郡内の死者は約50名、行方不明者は200名との報告が入っている。郡内を通る道路は所々陥没や亀裂が入るなど、ライフラインの被害も発生している。」というものでした。

合計2回の訓練として担当者が入れ替わるなどし、それぞれVCを訪れた災害ボランティアに対して「受け付け」「ボランティア保険登録の確認」「ボランティア登録」「名札作成」「オリエンテーション」「マッチング」「送り出し」「資器材貸与」を経て活動を終えてからの「資器材返却」「報告受理」までの実際の災害ボランティアセンターの運営を想定して一連の流れに沿っての訓練を行いました。また「ニーズ受け入れ」も同時進行で行われ、被災者役の防災士数名からはあらかじめ用意されたクレームの数々を発し担当者を大いに苦しめました。訓練後に各班で意見交換を行い班での課題や感じたことなどを発表し合いました。

初めての体験となる参加者が多い中、反省点も多々あげられましたがなによりも貴重な体験ができる良かったという意見が多く、大変意義のある訓練となりました。最後に奈良県防災士会相談役の植村防災士から講評があり、「災害ボランティアセンターの役目は被災地と被災者のためにあり、そのことを第一に念頭に置いて今後も取り組んでいただきたい」とお言葉をいただき参加者一同その言葉の重みを共有しました。<報告：北村防災士>



■令和7年度 奈良県防災士会 研修会

2月24日(月・祝)王寺町地域交流センター(リーベルホール)において令和7年度防災士会研修会が2部構成で実施されました。今回は奈良県との共催で、合計145名の参加がありました。末田理事長の開会あいさつの後、第1部は八木沢理事より「能登半島地震支援報告」と題して、昨年元旦の発災以降、奈良県防災士会として行った支援について報告がありました。第2部の研修は石川県防災士会副理事長大月真由美様より「能登半島地震！そして豪雨！～能登の現状と私たちの支援活動～」をテーマに講演をいただきました。講演に先立ち植村相談役から、「奈良県防災士会が支援に入った珠洲市で継続的に支援に入っておられた大月様から多くを学ばせていただいた事」、「お仕事と支援活動でご多忙の中で駆けつけていただいた事」、「リアルなお話から私たちが考えなければならないことに関するヒントがたくさんいただけるであろう」との紹介がありました。発災直後の現地は道路の寸断のみならず、海岸線の隆起により港が使えず「支援に入りたくても入れない状況」であったことに触れられ、多くの避難所が開設されている珠洲市への避難所運営のお手伝いに入ることになった経緯についてお話をされました。私たち防災士の活動は自己完結が原則である中、少し意外であったのは、避難している方から一緒に食べることを勧められたら、状況によっては一緒に食べてもらうほうが良いことについてのお話でした。避難所にいる人同士だと、自分のしんどさと同様の思いの人にはなかなか本音を言えないということを伺うとともに納得できるお話をしました。全体を通じて、参加者のみなさんが熱心に聞き入る姿が印象的でした。ライフラインの復旧もままならない中で、即時対応を求められることや、衛生上の習慣をつけるための具体的なアイディア、そしてストレスのたまるであろう子どもたちを頼りにすることで彼らの自己有用感を刺激しながら避難所の安全安心を確立されていった姿に、私たちが考えなければならないこと、そして頑張らなければならぬという勇気をいただけたご講演でした。<報告：岡本防災士>

講師紹介：NPO法人日本防災士会副理事長、NPO法人石川県防災士会副理事長 大月真由美氏

石川県出身。現在は県内の病院にて看護師として勤務。能登半島地震発災直後から珠洲市の正院小学校、蛸島保育所などで避難所支援活動を行い、石川県支部会員を避難所運営支援スタッフとして派遣する中心的役割を果たす。また、全国の防災士会支部へ呼び掛けて避難所運営支援州派遣や、災害ボランティアの受入れを珠洲市や能登町災害ボランティアセンターとの調整を行いつつ現在も活動中。



■平群町防災講演会 避難所運営ゲーム（HUG）

令和7年2月27日(木)14時から16時まで、平群町総合文化センターくまがしホールにて平群町地域自主防災組織連絡協議会防災講演会「避難所運営ゲーム（HUG）」を開催いたしました（5班構成）。本日のテーマとしては参加者が自らの地域で「避難所運営ゲーム（HUG）」を開催し、防災意識を高めることに寄与することを目的としました。理事長よりスライドにて過去や最近の災害地の写真等で災害の凄さを再認識し、次に避難所運営ゲームの説明、その後ゲーム開始となり15時過ぎにゲームは終了。振り返りタイムでは各班での困りごとや対応方法をそれぞれの班から発表し、末田理事長からコメントして頂きました。各班から出た項目は「病人」、「同行家族としてのペット」、「トイレ」、「喫煙者」、「バスツアー外国人」、「掲示板の記載」、「各イベント」、「ホームレス」、「炊き出しコーナー」等でした。皆さんが楽しく熱心にしておられたのが良かったです。<報告：堀田防災士>

■日本防災士会創立20周年イベント

さる5月10日(土)、防災科学技術研究所（茨城県つくば市）において日本防災士会創立20周年記念イベントが開催されました。このイベントは防災士会創立20周年を記念して開催されたもので、地域防災の重要性とその実践をめざして「さらにその先の未来へ」をテーマに行われました。イベントは、LINEヤフー株式会社 災害支援推進本部長 安田健志さんの基調講演を受けて、大阪大学大学院教授 稲場圭信様をモダレーターに「現場の力」「情報の力」「技術の力」からとして各界の著名の方をパネラーとして招いてパネルディスカッションが行われ、これまでの成果と今後の挑戦を考える機会となりました。特に、室崎理事長の①高い技術②深いつながり③熱い気持ちが大事であり、防災士設立の原点を忘れず謙虚になるべきと述べられたことが印象に残ったイベントでした。<報告：植村信吉防災士>



■ 石川県防災士会大月副理事によるグループワーク研修

2025年5月17日（日）、王寺町やわらぎ会館にて、石川県防災士会の大月副理事をお迎えし、「過去の災害事例を基に、災害発生時の避難所対応策と事前準備について」のグループワーク研修が実施されました。本研修会には、奈良県防災士会の役員・事務局員、災害ボランティア登録者、王寺町防災士ネットワークの方々を含む計23名が参加しました。また、この研修プログラムは、今後の進め方を模索するためのテストケースとして位置づけられており、研修資料についても「工事中」である旨が講師より報告されました。研修では、被災避難所で実際に起こった事案を課題（ケース）として定義し、それに短時間で向き合い、議論を通じて解決策を導き出しました。参加者全員が真剣に課題へ向き合い、協力して議論を進めることで、大変有意義な研修となりました。さらに、大月先生による説得力のある体験講話は、未経験の参加者にも深く伝わる内容でした。実際の災害対応の重要性を学ぶ貴重な機会となり、今後の防災活動へ活かすための示唆に富んだ研修となりました。<報告：大坂間防災士>



■ つげキッズ体験隊

令和7年6月22日（日）、奈良市都祁公民館において、「つげキッズ体験隊」の講座が行われ、奈良県防災士会から3名の防災士が講義を行いました。つげキッズ体験隊は都祁地域の小学生とその家族を対象とした連続講座で、奈良県防災士会としては前講座のキッズつげザーから3回目の講座となります。



今回は地震から身を守ることをテーマにして、まず北村防災士夫妻が奈良県防災士会オリジナルの紙芝居「マナちゃんリナちゃんの防災日誌（地震編）」を行い、お話の中でシエイクアウトの実践やクイズを実施しました。続いて地元の末田防災士が写真映像を見せながら「危ないところはどこクイズ」を行いました。スーパー、マーケット、歩道、駅、教室（理科室）など、危険なものがいっぱいあって、みんな積極的に手を上げてくれました。都祁は駅がないので電車に乗る機会がなく新鮮だったようです。

その後は実技練習として新聞紙でスリッパ作成を行い、参加頂いたお母さんも感激の出来上がりで盛り上がり、1時間半はあっという間に過ぎました。

山間部で人口が少ないため、昼も夜も都祁にいる小学生は、避難所を開設した時に自分たちも役に立てることに気づいてくれて、そのためにはまずは自分の身を守るための3つのアイテム（笛、LEDライト、スリッパ）を、嬉しそうに持って帰ってくれました。<報告：末田政一 防災士>

■ 野迫川小中学校で防災講演会

6月23日（月）、野迫川小中学校においてPTAを対象に防災研修会が開催されました。この研修会は、2011年9月に発生した紀伊半島大水害にて大規模土砂災害に見舞われた野迫川村の歴史を忘れることなく、今後の防災対策を学校や地域で進めるために企画されたものです。奈良県防災士会としては、当時、野迫川村の避難所で炊き出し支援活動を行い、サンマ（東日本大震災で被災した漁師の方から送って頂いた）を焼いたり、おでんを炊いたりした縁もあり、植村相談役が講師として現地へ向かいました。講演は、紀伊半島大水害時の記憶をたどりながら、野迫川村にて大規模災害が起きたらどうすれば良いのかとして行われました。野迫川村では当時の人口が500人を超えていたが、現在では約350人程度になっていることや、研修会に参加した人の中で当時の経験があると答えた人が2人という現実が明らかになりました。最後に、植村相談役から「これからも防災士会としてお手伝いできる事があれば言って下さい」と申し出をして研修会を閉じました。この研修会では、参加者が熱心に耳を傾けておられたことと、野迫川村の防災士の方も参加されていたことがわかって、大いに元気づけられた研修会となりました。



発災直後の北股地区(2011年9月)

<報告：植村信吉防災士>

■令和7年度 本部通常総会ほかへの出席

令和7年度日本防災士会の通常総会へ正会員一般参加として出席しました。総会は定刻通り開会し、若干時間を超過して閉会しました。議長には司会から指名を受けた岩井慶次氏が選出され、議事進行を執り行い、予定議事をすべて審議できました。全ての議事において出席者からの活発な質問が行われ執行部より答弁、意見として汲み取る旨の議論がなされ、全ての議案を採決し、賛成多数の議決に至りました。総会閉会後に第1回理事会が開催され理事交代後の役員互選がありました。結果、向こう2年間の理事長に奈良県選出の植村信吉氏が選出されました。氏の活躍に期待したいと思います。なお、その他の事項については本部からの公式報告がなされますのでそちらをご確認ください。<報告：八幡領防災士>

■令和7年度 斑鳩町自主防災連絡会総会

令和7年7月13日（日）斑鳩町中央公民館大ホールにおいて、令和7年度斑鳩町自主防災連絡会総会が開催されました。斑鳩町自主防災連絡会の64名に加え、主催者側のご厚意により奈良県防災士会の会員21名が見学の機会を得て、参加者は総勢85名となりました。



冒頭、斑鳩町の中西町長よりご挨拶を賜り、総会の議事は滞りなく進められました。続いて、奈良県自主防災アドバイザーとして派遣された奈良県防災士会の小山防災士が「大和川流域に集中豪雨が発生すると、斑鳩町は・・・」と題して1時間の講演を行いました。「浸水害について」「土砂災害について」「豪雨災害を生き抜くために」の順にお話をしました。講演後、防災士会の見学者は退場し、自主防災連絡会の皆さんに4班に分かれて意見交換会を行いました。どの班でも活発に発言がなされ、斑鳩町における自主防災活動の拡がりを感じられました。最後に、斑鳩町自主防災連絡会の顧問を務め、奈良県防災士会の相談役で日本防災士会の理事長でもある植村防災士から講評を賜り、総会は無事に終了しました。<報告：小山防災士>

■都祁中学校防災学習「地震対応練習」

令和7年7月4日（金）、奈良市立都祁中学校において、全校生徒を対象とした防災学習が行われ、地元自主防災会長である末田防災士が「地震対応練習」を行いました。ナラ・シェイクアウト（奈良県一斉地震行動訓練）に合わせて毎年この時期に実施しています。

地震対応練習は5限目の1時間で、まず各教室で先生から地震対応の説明があり、地震発生の放送から3分間、全生徒がシェイクアウトの練習をしました。その後安否確認のために校庭に集合するのですが、



3年生は3階から通常の避難ルートである階段が封鎖され通れなくなっているため、別ルートから降りるなどのアレンジも加え、臨機応変の中でも通常通りの行動が出来るようにしました。校庭では防災担当の先生からの説明の後、末田防災士が何のために練習するのかと、自分は大丈夫という正常性バイアスを歌を交えながら説明しました。

都祁中学校では自主的に練習出来るように、訓練ではなく「練習」と言っています。都祁地域は山間部で、一般的な市より面積が広いにもかかわらず人口が少なく高齢化が進んでいるため、昼も夜も都祁にいる中学生を頼りにしていて、生徒の皆さんも自覚してくれています。まずは自分たちがケガをしないよう、そして助ける側になれるように、みんな練習に取り組んでくれました。<末田政一防災士>

■お天気フェア 2025

令和7年7月30日(水)奈良県立図書情報館において、奈良地方気象台、奈良県砂防・災害対策課、NHK奈良放送局、奈良県防災士会の主催並びに奈良県立図書情報館の共催、気象友の会の後援による「夏休み お天気フェア 2025」が行われました。非常に厳しい暑さの中、73人が来場し、天気と防災について学んでいただきました。奈良県防災士会からは15人の防災士が参加し、「防災紙芝居」の上演、「新聞紙スリッパ作り」の工作、「ポリ袋クッキング」「能登半島地震・水害や奈良県防災士会の支援活



動」についての展示を担当しました。奈良地方気象台の「気象実験や展示」、奈良県砂防・災害対策課の「土砂災害」、NHK 奈良放送局の「VR 体験」と色々な内容で、来場者の皆さんは楽しみながら熱心に見学体験をされていました。来場者の中に、「来年防災士養成講座を受けて、防災士になります。」と言ってくれていた小学生もいました。<報告：西田防災士>

今後の活動予定

■令和 7 年度緊急消防援助隊近畿ブロック合同訓練(奈良県防災総合訓練)

日時：10月26日（日）午前 ※詳細は後日ホームページでご案内します。要申込。

場所：三宅町体育館

■関西支部連絡協議会研修会「スフィア基準」

日時：11月23日（日・祝日）午後 ※詳細は後日ホームページでご案内します。要申込。

場所：大阪駅前第2ビル4階 Como Rental office

講師：原田菜穂子教授

災害復興支援活動

奈良県防災士会 令和 6 年度第 12 次災害復興支援 ボランティア活動

3月14日～3月16日の間、石川県七尾市にて、第12次災害復興支援ボランティア活動を実施しました。今回の参加者は、初参加の方からベテランの方まで女性を含めた13名で、幅広い方々にご参加いただき支援活動を行いました。天候が不安定で、16日はあいにくの雨の中での活動となり、大変な場面もありましたが、それでも各人の献身的な活動により、当初の計画は無事完遂することができました。

また、今回は民間運営のボランティアセンター「民間災害ボランティアセンターおらっしゃ七尾」に受け入れていただき、活動を実施しました。これまで活動してきた社会福祉協議会様での支援活動とほぼ変わらず、丁寧な説明のもと行われました。なお、民間運営ということで、運営に伴う費用が補助や寄付に頼っているため、活動継続にはご苦労されている状況だと伺いました。

活動内容について2日間ともに3班に分かれ、それぞれのニーズに基づき対応を実施しました。チーム編成には、運営側の責任者が同行し、他団体や個人と混成チームを構成しました。主な活動内容は以下の通りです

1. 「公費解体」に伴う荷物の移動・運搬、搬出、片付けの手伝い。
2. 被災者地域への訪問、ニーズ調査、ボランティアセンター案内のローラー班活動。また、訪問宅への支援配布品の袋詰め作業も、ボランティアセンター帰着後の限られた時間で実施しました。
3. 初日の夕食は「食べることで支援をする」という趣旨で、近隣飲食店を訪れ、参加者の振り返りや慰労の場を設けました。



活動チームの紹介

● 八幡領さんチーム

大きな家屋と納屋での支援を担当し、2日間連続で対応。搬出品の分別、搬出、クリーンセンターへの運搬に従事。これまで支援者が入り活動しているものの、まだ完了には至っていない状況。

● 北村さんチーム

初日は2階建て倉庫で搬出品の分別・搬出・クリーンセンターへの運搬、2日目は停電中の被災者宅にて、暗がりの中で同様の作業を実施。また、ボランティアセンター帰着後、支援配布品の袋詰めも担当。

● 植村さん（初日）・駒田さん（2日目）チーム

指定地域を2名一組で一軒一軒訪問。ヒアリングを通じたニーズの掘り起こしやボランティアセンターの案内を徒歩で行った。

現地雑学：七尾市では発災初期から分別収集が徹底されており、仮仮置き場が設置されるほどです。

現在は災害廃棄物の集積場は閉鎖され、一般ごみ排出ルールに基づいた分別と収集が行われています。しかし、ルールが多岐に渡り、時に煩雑な面もあります。特に、クリーンセンターの分別基準に適合しない場合、受け入れが拒否される厳しさも垣間見えます。初日活動中も、土埃や土砂に混じる金属片の分別作業が必要でした。

最後に 令和6年(2024年)の能登半島地震および奥能登豪雨による被災地では、復旧・復興作業が現在も真っ最中です。引き続き、皆様のご支援とご協力をお願い申し上げるとともに、奈良県防災士会の災害支援活動へのご賛同・ご参加を心よりお待ちしております。

<2025年3月 奈良県防災士会 災害ボランティア担当 大坂間 弘明>

■奈良県防災士会 頒布品のご紹介

- 研修会、および総会の受付で販売します。会場へお越しの際にお買い求めください。
- 郵送・通販形式での販売、および取り置きは行っておりませんのでご注意ください。

★防災士ベスト＆防災士ビブス

左胸に「NPO 法人 奈良県防災士会」の名称を入れました。**ビブス**は夏場の訓練などに最適なメッシュ素材。

○頒布価格 2,500円(税込)

○カラー 緑(1色)

○仕様 前面2カ所ポケット付き

(単位: cm)

サイズ	防災士ベスト			防災士ビブス	
	F(L)	XL	XXL	XL	XXL
着丈	69	72	75	60	65
身幅	56	59	62	60	65



着用例：サイズF(L)(身長160cm)



▼ファスナー＆生地ポケットビブス 大人一般(XL)サイズ
※ポケットはマジックテープ留め仕様

★防災士キャップ

フロントに防災士くんをデザインし、サイドに「奈良県防災士会」の名称を入れた奈良県防災士会オリジナルキャップです。優れたドライ機能とUVカットが嬉しいポリエステル100%メッシュ素材。

○頒布価格 1,500円(税込)

○カラー 緑(奈良県防災士会のベストと同色)

○サイズ フリー(サイズ調整可能)

デザイン画



奈良県防災士会

事務局からのお知らせ

奈良県防災士会のウェブサイトをご存知ですか？イベントのお知らせや、活動報告は、

「**奈良県防災士会**」で検索！



奈良県防災士会のFacebookを開設し、さまざまな情報をアップしています。「いいね！」をよろしくお願いします。

「Facebook 奈良県防災士会」で検索

奈良県防災士会のウェブサイトでは、会員のスキルアップのため、県内で開催される防災訓練の情報をスケジュール欄に掲載しています。併せてお手伝いの募集も行っています。予約制となりますので、見学を希望される方は、事前に事務局までメールで申込をお願いします。

■発行日 2025年8月10日

■発行者 特定非営利活動法人奈良県防災士会 理事長 末田政一
〒632-0221 奈良市都祁白石町1192-190

■編集 特定非営利活動法人奈良県防災士会 広報部会

■E-mail mail@bousainara.com

■FAX 050-3488-8178

■ウェブサイト <http://bousainara.com>

■Facebook <https://www.facebook.com/bousainara>